

ふるさと「阿南市」の素晴らしい魅力を再発見!



おいだに 生谷いきいきサロン (新野町)

発行/平成28年(2016年)5月1日 [694号]
 編集/阿南市企画部秘書広報課 〒774-8501 阿南市富岡町1-1番地3 ☎0884-22-1110 e-mail: hisho@city.anan.tokushima.jp
 印刷/米崎印刷株式会社



早朝よりお接待のおにぎりを手作りする



今春は5月3日に、第23 番札所薬王寺までの遍路道に接待所を設ける

今、こんな自然体で笑えますか。
 超高齢化社会を迎えようとしている中、高齢者が住み慣れた土地で親しい友人に囲まれ、いきいきと暮らしていきいきサロン」がある。
 新野町にある生谷地区は谷あいの山村で、現在28戸が暮らし、そのうち子ども(中学生以下)が17人。地域コミュニティの活力低下が危惧されている昨今、お互いが情報交換をしようとして、たまりばをつくったのがきっかけ。会長の南谷隆夫さん(87歳)は、「自分たちがいきいきと情熱をもって活動しようという思いから『生谷いきいきサロン』と名付けました」と話す。
 春には、歩き遍路さんのための接待所を設け、真心込めて作ったおにぎりやかしわ餅、みかんなどでお接待をする。豊かな自然の中、全国各地、外国の人々とあたたかな触れ合いが生まれる。



三世代の交流は何よりの元気の源



荷造り紐の籠づくり真剣に取り組む

夏には、スイカ割りやメダカすくい、シャボン玉、ピングゲームなどを催し、親・子・孫の三世代が交流する。子どもたちにとっては遊びのビックリ箱。嬉々として湧き上がる歓声や子どもたちの目の輝きが、メンバーの喜びであり励みとなる。ほかに、籠づくりや写経、また、秋には近隣の広重地区と合同で健康教室を行い、健康づくりにも取り組んでいる。会の結成から5年目となる今も、自分たちで考え楽しみながら活動を続けている。

平成26年5月、生谷に国の天然記念物のコウノトリが飛来した。「この地に何十年と住んでいるが、コウノトリを見たのは初めて」と話す皆さん。幸せを運ぶ鳥は、生谷の熱い思いに伝えるためここに立ち寄ったに違いない。



コウノトリは約3週間滞在したという